



エコアクション21[®]
認証番号 0009794

2024 年度 環境経営レポート



対象期間：2024 年 5 月～2025 年 4 月

発行日　：2025 年 5 月 30 日

JDS 株式会社情報伝送システム

目 次

1. 環境経営方針	3
2. 組織の概要	4
2.1 名称及び代表者名.....	4
2.2 所在地	4
2.3 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先.....	4
2.4 事業内容	4
2.5 事業の規模	4
2.6 事業年度	4
3. 認証・登録の対象範囲と実施体制図及び役割・責任・権限表	5
3.1 認証・登録事業者.....	5
3.2 対象事業所	5
3.3 認証・登録の対象事業活動.....	5
3.4 実施体制図	5
3.5 役割・責任・権限表.....	6
4. 環境負荷の実績	7
5. 環境経営目標及びその実績.....	8
5.1 環境経営目標.....	8
5.2 実績	9
6. 環境経営活動計画及び取組み結果とその評価、次年度の環境経営活動計画 ..	10
7. 環境関連法規等の遵守状況の評価結果.....	11
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示.....	12

ごあいさつ

株式会社情報伝送システムは、コンピュータソフトウェア開発を通じて社会に貢献することを理念として営業してまいりました。１９８８年の設立以来、多くのお客様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営んでまいりました。

２０１４年度にエコアクション２１に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって、地球環境に優しい企業として新たな一歩を踏み出し、今日に至っております。

これを全社員に周知徹底し、環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んで行くことを宣言します。

1. 環境経営方針

株式会社情報伝送システムは、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題と考えており、本業であるソフトウェア開発を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

活動内容は、環境経営における課題やチャンスを定期的に見直すことで明確にし、効率よく、無駄なく、タイムリーに従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
3. 廃棄物排出量の削減及び廃棄物の再生利用を推進します。
4. 水使用量の削減を推進します。
5. グリーン購入を推進します。
6. 環境に配慮した製品の開発及び販売を推進します。
7. 環境経営目標を定め、定期的に見直し、継続的改善に努めます。
8. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2013年5月31日
改定日：2022年11月17日

株式会社情報伝送システム

代表取締役社長 大原 孝一

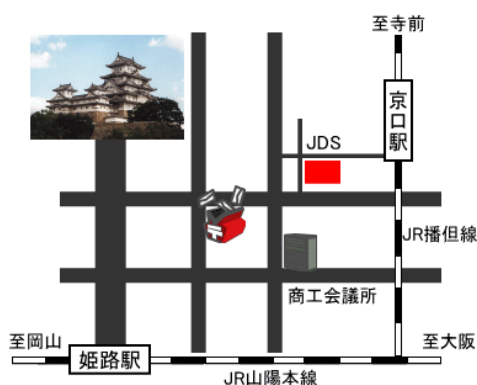
2. 組織の概要

2.1 名称及び代表者名

株式会社情報伝送システム
代表取締役社長 大原 孝一

2.2 所在地

本 社 〒670-0852
兵庫県姫路市国府寺町 18 番地



2.3 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先

環境管理責任者	営業技術部	黒田 浩臣
担当者	営業技術部	黒田 浩臣

連絡先	TEL	: 079-223-6645
	FAX	: 079-223-1039
	E-mail	: tec@jds-g.co.jp

2.4 事業内容

コンピュータソフトウェア開発
エンジニア派遣
ソフトウェアパッケージ開発販売

2.5 事業の規模

従業員	9 名(うち、関連会社社員 : 3 名)
売上高	89 百万円 (2023 年度実績)
延べ床面積	46.41 m ²

2.6 事業年度

5 月～翌年 4 月

3. 認証・登録の対象範囲と実施体制図及び役割・責任・権限表

3.1 認証・登録事業者

株式会社情報伝送システム

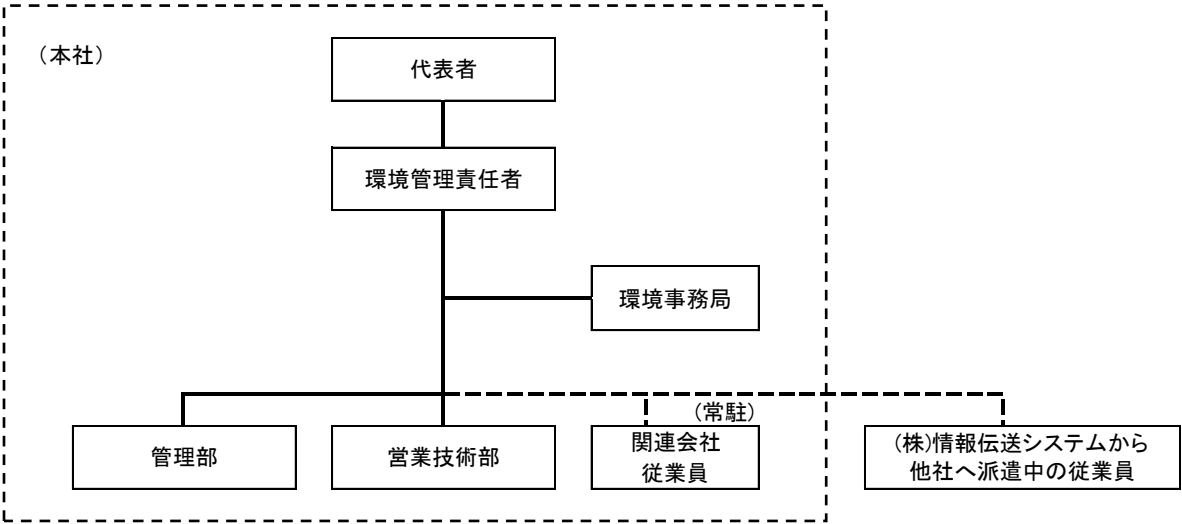
3.2 対象事業所

本社

3.3 認証・登録の対象事業活動

コンピュータソフトウェア開発
エンジニア派遣
ソフトウェアパッケージ開発販売

3.4 実施体制図



3.5 役割・責任・権限表

担当	役割・責任・権限
代表者（社長）	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 環境管理責任者を任命 - 承認 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境経営目標設定書 - 環境経営計画書兼進捗管理表 - 環境教育訓練 - 環境上の緊急事態への準備及び対応 - 取組状況の確認並びに問題点の是正及び予防 - 代表者による全体の評価と見直し・指示 - 環境経営活動レポート - 経営の課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 承認 - 環境関連法規制等の取りまとめ表 - 環境関連の外部・内部コミュニケーションの窓口、及び対応策の決定 - 環境教育訓練計画 - 実施及び運用の各手順書 - 環境上の緊急事態に関する手順書（火災対応手順書） - 環境関連法規制等取りまとめ表に基づく遵守評価 - 確認 - 環境経営目標設定書 - 環境経営計画書兼進捗管理表 - 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括（確認） - 取組状況の確認並びに問題点の是正及び予防 - 環境経営レポート - 作成 - 取組の対象組織・活動の明確化 - 実施体制図及び役割・責任・権限表 - 環境関連文書類一覧表 - 環境経営の取組結果を代表者へ報告（作成）
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐 - 従業員への環境経営方針の周知 - 作成および実施 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施、記録 - 環境関連法規制等取りまとめ表 - 環境経営目標、環境経営計画書原案 - 環境経営活動の実績集計 - 環境教育訓練計画原案、実績記録 - 従業員に対する教育訓練の実施、記録 - 実施及び運用の各手順書 - 環境上の緊急事態に関する手順書（火災対応手順書） - 緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録 - 取組状況の確認並びに問題点の是正及び予防 - 環境関連法規制等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施、記録 - 環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付） - E A 21活動履歴管理台帳の記録 - 環境関連の外部・内部コミュニケーション記録の作成 ※実施項目は環境事務局が責任を持って行う。
部門長	- 自部門における環境経営システムの実施 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 実施及び運用の各手順書の運用 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加 - 環境関連の外部コミュニケーション（苦情、要望）の受付及び環境事務局への報告 - 環境関連の外部・内部コミュニケーションの対応策の実施

4. 環境負荷の実績

項 目		単位	2019年度 基準年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量（注1）		kg-CO ₂	1,569	61	0	0
電力		kWh	4,699	4,006	4,224	4,371
石油類(ガソリン、灯油等)(注2)		L	—	—	—	—
都市ガス（注3）		m ³	—	—	—	—
廃棄物 排出量	一般廃棄物	kg	140.00	130.90	57.10	76.70
	産業廃棄物	kg	0	0	32	39
水使用量（注4）		m ³	—	—	—	—
化学物質（注2）		kg	—	—	—	—

注1：電力の二酸化炭素排出係数は、2022年5月までは関西電力㈱の2018年度公表値0.334kg-CO₂/kWhを使用。2022年6月以降は電力プランをCO₂排出量ゼロのD-Green Premium（Daigasエナジー㈱）としたので、二酸化炭素排出量は0kg-CO₂である。

注2：当社の事業では格別の取扱なし。

注3：雑居ビルで個別にガスメーターが無いため実績不明。なお、当社ではガスはほとんど使用しない。

注4：雑居ビルで個別に水量計が無いため実績不明。

5. 環境経営目標及びその実績

5.1 環境経営目標

年 度			基準年度 2019年度	2024年度	2025年度	2026年度
項 目（注10）						
I	二酸化炭素排出量合計（注1, 2）	kg-CO ₂	0	0	0	0
		対基準	(2022年度)	0.0%	0.0%	0.0%
	電力使用量削減（注3）	kWh	4,699	4,582	4,558	4,535
		対基準	—	△ 2.5%	△ 3.0%	△ 3.5%
II	廃棄物排出量	一般廃棄物削減	kg	140.0	136.5	135.8
		対基準	—	△ 2.5%	△ 3.0%	△ 3.5%
	廃棄物再生利用	%（注6）	100.0	100.0	100.0	100.0
		対基準	(2023年度)	△ 0.0%	△ 0.0%	△ 0.0%
III	水使用量削減（注4）	m ³	実績不明	節水	節水	節水
		対基準				
IV	グリーン購入	%（注5）	92.0	94.5	95.0	95.5
		対基準	—	+ 2.5%	+ 3.0%	+ 3.5%
V	環境配慮製品（注7）	%（注8） 品質活動の実施率	80	85	87	90
		対基準	（注9）	+ 5.0%	+ 7.0%	+ 10.0%

注1：ガソリン使用量削減（自動車等燃料）、軽油使用量削減（トラック燃料）、灯油使用量削減（暖房用）は、当社の事業では取扱なしのため記載なし。

注2：雑居ビルで個別にガスメーターがなく、ガスはほとんど使用しないため記載なし。

注3：電力プランがCO₂排出量ゼロのプランであるため二酸化炭素排出係数を0(kg-CO₂/kWh)とする。

注4：雑居ビルで個別に水量計が無いため実績不明。

注5：全購入件数に占めるグリーン購入件数の割合

注6：全廃棄量に占めるリサイクル量の割合（リサイクル率）

注7：当社における環境配慮製品とは、「高品質なプログラム」である。

注8：品質活動の実施率：デザインレビュー実施数 / デザインレビュー実施予定数

注9：本項目については基準年度なし。

2022年度から環境配慮製品についての活動・評価方法を見直した。

新しい評価方法の実施率は感覚的に80%程度であると考えた。

よって初年度目標は80%とした。

注10：化学物質を取り扱っていないため、環境経営目標に設定しない。

5.2 実績

年 度 項 目 (注10)			基準年度 2019年度	2024年度の実績				
				(2024年5月～2025年4月)				
				目標	実績	達成度	評価	
I	二酸化炭素排出量合計 (注1, 2)		kg-CO ₂	0	0	0	100.0%	○
			対基準	(2022年度)	0.0%	0.0%		
	電力使用量削減 (注3)		kWh	4,699	4,582	4,371	104.5%	○
			対基準	—	△ 2.5%	△ 7.0%		
II	廃棄物 排出量	一般廃棄物削減	kg	140.0	136.5	76.7	142.7%	○
			対基準	—	△ 2.5%	△ 45.2%		
		廃棄物再生利用	%(注6)	100.0	100.0	100.0	100.0%	○
			対基準	(2020年度)	△ 0.0%	△ 0.0%		
III	水使用量削減 (注4)		m ³	実績不明	節水	—	—	○
			対基準			—		
IV	グリーン 購入	全購入件数	件	25	—	32	102.4%	○
		グリーン購入件数	件	23	—	31		
		期間内 グリーン購入割合	%(注5)	92.0	94.5	96.9		
		対基準	—	+ 2.5%	+ 4.9%			
V	環境配慮製品(注7)		%(注8) 品質活動の実施率	80.0	85.0	100.0	115.0%	○
			対基準	(注9)	+ 5.0%	+ 20.0%		

評価欄： ○達成 △やや未達成 ×未達成

達成度：100(%)±(実績の対基準(%)－目標の対基準(%))

±は目標の対基準(%)の符号と同じ（I、II、III、Vは「－」、IVは「＋」）

0以下の場合は0とする。

注1～10：「5.1. 環境経営目標」の注釈を参照。

「電力使用量削減」は、目標の対基準 2.5%減 4,582kWh に対して実績は対基準 7.0%減の 4,371kWh となり、達成度 104.5%となった結果、目標を達成することができました。また「二酸化炭素排出量合計」は、電力プランを CO₂ 排出量ゼロの D-Green Premium (Daigas エナジー㈱) にしているため二酸化炭素排出量を 0kg-CO₂とすることが維持できています。

「一般廃棄物削減」は、目標の対基準 2.5%減 136.5kg に対して実績は対基準 45.2%減の 76.7kg となり、達成度 142.7%となった結果、目標を達成することができました。

「廃棄物再利用」は、目標の 100.0%に対して実績は 100.0kg となり、達成度 100.0%となった結果、目標を達成することができました。

「グリーン購入」は、目標の 94.5%に対して実績は 96.9%（32 件中 31 件がグリーン購入）となり、達成度 102.4%となった結果、目標を達成することができました。

「環境に配慮した製品の開発及び販売」は、目標の対基準 5.0%増 85.0%に対して実績は対基準 20.0%増 100.0%となり、達成度 115.0%となった結果、目標を達成することができました。

全体としては全ての項目で目標を達成することができており、環境に配慮した取り組みが行えていると思います。次年度以降も課題や目標を定め引き続き取り組んでまいります。

6. 環境経営活動計画及び取組み結果とその評価、次年度の環境経営活動計画

No	分類	環境目標	取組み計画（達成手段）	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
I	二酸化炭素 排出量削減	電力使用量削減	エアコンの温度管理 (冷房26℃・暖房22℃を目安)	○	「省エネルギー手順書（電力）」ど おり実施できた。次年度も引き続き 実施する。
			照明管理（不使用場所の消灯）	◎	「省エネルギー手順書（電力）」ど おり実施できた。次年度も引き続き 実施する。
			電気機器の不要時の運転禁止	◎	パソコン、プリンタ、シュレッダー 等、「省エネルギー手順書（電 力）」どおり実施できた。
II	廃棄物 排出量削減	一般廃棄物削減	分別によるリサイクルの推進	○	段ボール、缶、ペットボトル等、 「一般廃棄物分別および削減手順 書」どおり実施できた。次年度も引 き続き実施する。
			ミスコピーの防止	○	「一般廃棄物分別および削減手順 書」どおり実施できた。次年度も引 き続き実施する。
			裏紙の使用	○	「一般廃棄物分別および削減手順 書」どおり実施できた。次年度も引 き続き実施する。
		廃棄物再生利用	分別によるリサイクルの推進	◎	リサイクル率100%を維持し、目標を 達成できた。次年度も引き続き実施 する。
III	水使用量削減	節水	節水管理手順書遵守 ・適量の水使用 ・蛇口の閉め忘れに注意	○	「節水管理手順書」どおり実施でき た。次年度も引き続き実施する。
IV	グリーン購入	事務用品のグリーン 購入比率向上	対象品目のグリーン購入の推 進	○	「グリーン購入手順書」どおり実施 し、目標を達成することができた。 次年度も引き続き実施する。
V	環境配慮製品	環境に配慮した製品 の開発および販売	品質活動の実施率	◎	実施率100%で目標を達成できた。次 年度も引き続き実施する。

達成状況欄： ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

全ての項目について目標の達成や取組み計画の実施を着実にっており、取組みは有効に機能しています。

7. 環境関連法規等の遵守状況の評価結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

遵守評価日：2025年5月1日

No	適用される法規制	関連条例等 による規制	遵守する事項	評価 (遵守:○)
1	廃棄物処理法		保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	○
2	家電リサイクル法		特定家電4品目の適正な事業者（家電販売店）への引き渡し	廃棄実績 なし
3	消防法	姫路市火災 予防条例	火災発生の恐れのある機器の取扱基準の遵守	○
4	資源有効利用促進法		対象品目(デスクトップ本体、ノートパソコン、液晶ディスプレイ、ブラウン管ディスプレイ)の適正な事業者（家電販売店）への引き渡し	○

注1：自動車リサイクル法、フロン排出抑制法については、当社対象なしのため記載しない。

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去12年間ありませんでした。
開発当局より違反等の指導もありませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 全体の達成状況

目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント
1. 二酸化炭素排出量の削減	○	○	目標達成
2. 電力使用量の節減	○	○	目標達成
3. 一般廃棄物の削減	○	○	目標達成
4. 廃棄物再生利用	○	○	目標達成
5. 水使用量の削減	○	○	変動なし
6. グリーン購入の推進	○	○	目標達成
7. 環境配慮製品の開発・販売	○	○	目標達成

2. 全体評価

EA21 の 12 年目としてはすべての項目で目標を達成することができました。

エコアクション 21 の取組みは、平常の企業活動の中で常に意識し、改善を進めます。すべての活動の中で、3 R（Reduce（リデュース=資源の量を減らす）、Reuse（リユース=繰り返し使用する）、Recycle（リサイクル=原材料の有効利用））はもちろんのこと、環境意識の啓発に努めていきます。

来期の環境経営目標は、2019 年を基準年として 5 年活動してきましたが、目標値と実績値が離れている項目もあるため来年度から基準年を 2024 年に見直します。

環境経営方針、計画書および実施体制については変更の必要はないと判断します。

次年度も積極的に EA21 活動に取り組んでまいります。

2025 年 5 月 30 日
株式会社情報伝送システム
代表取締役社長 大原孝一